

基本語彙に関する一考察

——トルコの教科書から——

一 はじめに

(1) 基本語彙に関する一考察

一九七一年のなつ、ユネスコひがアジア文化研究センター(東洋文庫)で、大学生ら二十数名に、トルコ語をおしえた。講習会をおわつての感想のなかに、つぎのような発言があり、いあわせた学生たちも同感の意をあらわした。「ぼくの英語力は、まあかなりの程度だともっていたのに、このなつ、英和辞典を随分ひくはめになつて、がっかりしています」と。どういふことかといふと、トルコ語の単語を、トルコ英語辞典でさがすと、そこにててくる英語がわからない。そこで英和辞典のた

すけをかりて、日本語から英語をとおしてトルコ語の意味をつかむと、こういうわけである。

竹 内 和 夫

いままた、十名ほどの大学生をあいてに、おなじ経験をしつつある。教材は、まえとおなじトルコの小学校一年生のうすい教科書をつかっているのだが、この大学生たちをなやませている単語に関して、日本の大学生の英語の語彙力の問題だけなのか、トルコ英語辞典の著者の訳語の偏向なのか、トルコの小学生にとってはどうなのか等々、解明してみようというわけである。日本の大学入試にいたる中学高校の英語教育では、文部省の学習指導要領や全国英語教育研究団体連合会、教育委員会など

によって基本語彙がしめされており、また「これだけし
 っていれば大学入試97%大丈夫」というものも市販され
 ている。はたして、いま問題の英単語は、これらの資料
 にふくまれているだろうか、ソーンダイクらの基本語彙
 と比較して、どうだろうか。以上が本稿の出発点である。

二 基本語彙とその性格

一言語あるいは方言、個人にあらわれる単語の全体を
 語彙という。日本語の語彙、英語の語彙、仙台方言の語
 彙、A氏の語彙など。しかし現実的には個人が理解し、
 使用する単語の全体が基礎となっている。個人によって
 語彙の大小があるから、たとえば仙台方言の語彙といっ
 ても、仙台市にすむ日本人ひとりひとりの語彙を計算し
 て、その異語数をだすという作業がなければ、仙台方言
 の正確な語彙数をつかむことができない。それは不可能
 であろう。まして日本語の語彙を数量的につかむことは
 不可能である。では日本語の語彙というのは、フィクシ
 ョンかといえ、そうではない。個人の言語行動は現在
 存在しているのだから、その総和としての方言の、ある
 いは日本語の語彙を仮定することなしには、まえへすす

むことができない。

このような空間的なひろがりとともに、時間的なひろ
 がりも問題となる。日本語の語彙のなかには、うつりか
 わり、理解されなくなったもの、なりつつあるもの、使
 用されなくなったものなどが、たくさんある。それらを
 ふくめて日本語の語彙とすることができようが、そ
 の数をつかむことはできない。同様にフィクションでは
 ない。個人に歴史があるように、言語はつねに歴史的で
 ある。このような言語の本質を前提として、特定の文献
 なり作品にあらわれる語彙を計算するところのみが、か
 ずおこなわれている。シェイクスピアの全作品での使用
 語彙の総数は二万一千である⁽¹⁾とか、源氏物語の語彙は一
 四、六八八語である⁽²⁾とか。これらの数字は、もちろんシ
 ェイクスピアや紫式部の語彙総数の一部であるにちが
 いない。普通個人はどのくらいの語彙をもっているかに
 ついて、古来論議がなされ、想像以上におおひ数万の語彙
 を理解するという結論に達しているようである。

イエスベルセンは、マックス・ミュラーが「農民は、
 わずか三〇〇語を使用するにすぎない」といい、ウッド
 が「普通のひとは約五〇〇語を使用する」といったのに

(3) 基本語彙に関する一考察

対して、要約つぎのような反論をこころみている。⁽³⁾

ある二歳の少女は四八九語を有し、もうひとりは一、二一語を有していた。六歳のある男子は二、六八八語を使用している。ホールデンという教授はウェブスター辞典中のすべての語にあたって、自分の語彙をしらべたところ三三、四五六語であった。

またバビットというひとの実験結果を紹介して、

イギリスの大学生は約六万語を理解するとし、小学校教育をうけ本をよくよむひとでは五万語を理解するが、普通は二万五千から三万五千語である。⁽⁴⁾

十九世紀から二十世紀へ、語彙量に関する空想から科学への前進が、みぎの引用のなかからも、みとめることができ、それはまた、「未開」と「文明」における言語認識の前進を象徴する。そのご内外の児童心理学者によって、学齢前のこどもの語彙調査がおこなわれてきた。そのいくつかを日本人についてみると、イエスベルセンがひいている六歳の男子の二、六八八語使用というあたりが妥当なようであり、理解語彙は使用語彙の約二倍であることがわかる。⁽⁵⁾ もちろん、したの表の数字は調査の方法、被調査者の質、単語の認定のしかたなどで容易にか

調査者(年)	調査人数	6歳の語彙量
沢柳政太郎 (1919)	25	平均 4,089 理解
久保良英 (1926)	1	2,289 使用
岡山師範付属小学校 (1935)	28	最高 6,906 最低 3,338 平均 5,230 } 理解
	1	3,132 使用
阪本一郎 (1955)	見本法 39,366	5,661 理解
大久保 愛 (1967)	1	3,182 使用

わりうるものだから、厳密にうけとることはできないが、およその見当をつけるために参考に供したものである。⁽⁶⁾ 広辞苑が二十万語、OEDが五十万語といっても、そのなかには死語にちかいものや、きわめて特殊な語もふくまれている。いろいろなデータからみて、日本人の成人の理解語彙は、およそ四万であり、使用語彙はずっと

すくなく、日常会話にいたっては数千語で用がたりである。基本語彙とよばれるものは、こうした日常生活に必要な基本的な語彙をさして、どこまでがという範囲をきめることが困難なものである。⁽⁸⁾しかし、さきにあげた児童の語彙は、ごく一部の幼児語をのぞいて、基本語彙のなかに位置するはずである。たとえば岡山師範の調査では(注(5)の一―一二〇ページ)、理解語彙、使用語彙のすべてが収録されているから、これを見ると、二十八人中二十五人以上(90%)が理解している名詞一、四五一語には

朝、朝晩、アス、アシタ、アサツテ、アト、間、雨、雨降、雨ダレ、雨水、雨風、朝日、アラレ、泡、穴……
 などがあり、動詞三三四語中には

上ル、アル、遊ブ、余ル、洗フ、預ケル、当ル、現レル、会フ、暴レル……

などがある。いま、これらの名詞と動詞を大久保氏の使用語一覧(注(5)の三五四―三九九ページ)にあたってみると

朝、あす、あした、あさって、あと、あいだ、あめ、あられ、泡だらけ、穴……上る、ある、遊ぶ、余る、

洗う、預かる、当る、あらわれる、会う、あばれる……
 となる。理解語彙と使用語彙のちがい、三十年もの年代のちがいにもかわらず、これらは日本語の基本語彙であるにちがいない。

国立国語研究所の林氏は前掲論文二ページで、基本語彙を細分して、つぎの五つの概念をたてて、定義をあたえておられる。

(1)基礎語彙 意味の論理的分析によって求められた半人工的な語彙

(2)基本語彙 特定目的のための「○○基本語彙」

(3)基準語彙 標準的な社会人としての生活に必要な語彙

(4)基調語彙 特定作品の基調を作るのに働く語彙

(5)基幹語彙 ある語集団の基幹部として存在する語彙
 本稿では(1)と(2)は(3)にふくまれるものとして、これら三者を常識的に基本語彙とよぶことにする。英語では

basic, commonest, essential, fundamentalなどと表現されている。さらに基本語彙は文字とのかかわりがあり、とくに日本語では漢字がよめるか、かけるかという基準

(5) 基本語彙に関する一考察

をもうけるか、どうかの問題になる。そのような段階で分類すると

- A きいてわかる語彙
- B はなすことができる語彙
- C かかれた場合に、よんで理解できる語彙、文字の種類によってわかる
- D 一定の正書法をもちいて、それをかくことのできる語彙

のようになる。たとえば /atama/ という語は、日本語なら [atama], [atama], [atama]、アタマ、あたま、頭などのいずれの段階を要求し、英語なら [hed], head, トルコ語なら [ba], bas のように音声の段階と文字の段階が区別されうるし、A から D へいくにつれて語彙量がへるであろう。ここでは A の段階をもって基本語彙量かんがえる。

三 教科書の語彙

さきにもべたように学齢前後までに習得した理解語彙は、その言語集団における基本語彙の重要部分をなすであろう。その量は個人差があるが、およそ五千である。

その後の教育と社会的経験によって、成人の理解語彙は四、五万に、使用語彙は一万程度に達するとかんがえられる。さきの国立国語研究所による雑誌調査の結果からは、一万語で90%をこえ、阪本氏の調査では、つぎのように語彙の増加率が最高に達する年齢は十歳、その語彙数一万三千となっている。

年齢	語彙量	増加率
6	5,661	18.4
7	6,700	19.0
8	7,971	28.9
9	10,276	35.1
10	13,878	39.3
11	19,326	32.8
12	25,668	21.7
13	31,240	16.0
14	36,229	11.7
15	40,462	8.5
16	43,919	5.7
17	46,440	3.0
18	47,829	0.9
19	48,267	0.1
20	48,336	

ここで教科書と児童の語彙とをくらべた資料をみると、小学校入学時の学童は、文字の障害を別として、すでに教科書にのっている語彙の大部分をみにつけていることがわかる。すなわち、ふるく岡山師範によって十二名の新入学童に対しておこなわれた調査によると、新国語読本巻一、二にあらわれる語彙七五五語について、その八七%以上を十名以上の学童が理解しているという。このような調査結果は、すでに保有している学童の語彙量か

らすれば、当然といえるであろう。小学校低学年では、文字指導がおおきな部分をしめることから、教科書の語彙量は一定の制限をうける。ともあれ一国の初級教科書にあらわれる語彙は、その言語における基本語彙を反映していると推測することができる。

以下、本稿の出発点においてのべたごとく、トルコの小学校一年生の教科書を調査した結果を報告してみたい。しらべた教科書は、つぎの四種である。

- I Okuma Kitabı 1, İstanbul⁽¹⁾
- II Hayat Bilgisi Türkçe: 1 İlk Okuma, İstanbul 1968

III İlkokuma, İstanbul 1973

IV Atatürk Alfabesi, İstanbul 1976

みぎのIIIとIVは、九月に入学してアルファベットをおぼえながら、一年生の前半期につかうものであり、IとIIは後半期につかうものである。それぞれのページ数と異語数は、つぎのようで四冊合計の総異語数は九九〇であった。

- I 三二ページ 六一三語
- II 三二ページ 七〇二語

III 六四ページ 一六二語

IV 四八ページ 四三八語

なをを一語とかぞえたか。

・固有名詞も一語とした。

・語尾をとりさった部分を、おなじ一語とした。例 okul (学校) と okula (学校へ), gel (こい) と geldi (きた)……

・不規則な代名詞の変化形も前項に準じて、おなじ一語とした。例 ben (わたし) と bana (わたしに)……

・動詞接尾辞のうち否定の -me 名詞形成の -me, -mek をとりさった部分を、おなじ一語とした。例 gel (こい), gelme (くるな), gelme, gelmek (くること)……

……

・名詞につく副詞形成の母音と、+ki をのぞいた部分を、おなじ一語とした。例 bu gün (きょう), bu gündeki (にわたる……)……

・付属語、助動詞をそれぞれの一語とした。例 gelirsin (きみがくる), gelirse (くるなら), ağırısın (あけさせてください)……

……

(7) 基本語彙に関する一考察

・母音調和および d-t の交替形は、まなご一語とした。
例 mi と mu, dir と tur……

・感嘆詞、擬声語で母音字が連続することがあるが、まなご一語とした。例 e と ee, vu と vuu……

さて、これら四種の教科書にあらわれる九九〇語の大部分は、トルコ語に「まなご」の基本的な語彙である。うとかんがえられる。その一例を以下に示す。十九世紀のトルコ語の「まなご」の日本語は「コンテラヌ」に即して「ひたす」である。

gabuk (はやく), gağ (とき), çağır- (さげす), çağırıl- (「お客に」よばれる), gal- (「ピアを」たたく), galış- (はたらく), galışkan (はたらきもの), gamurlan- (どろだらけになる), gan (「電車の」かね), ganta (カンパン), gardak (あずまや), çarşai (ショーツ), çay (お茶), çayır (牧場), çek- (「電報を」うつ), çekil- (ひきさがる), çevikleş- (活発になる), çik- (でてくる, あらわれる), çikar- (だす), çikış- (せめたてる), çiçek (はな), çiçeksiz (はながさかない), çift sür- (たがやす), çouuk (こども), çoğal- (ます), çok (とても), göp (木片, こえた), çuh (シュマツ), çünkü

(だって, なぜなら)

このように、これらの単語をトルコ英語辞典(13)とみて、その初出の英訳語をかかげてみる。

quick, time, call out, be called out, give a blow to, work, industrious, cover with mud, bell, bag, hut, sheet, tea, meadow, pull (send), be pulled (withdraw), quick (=çevik), come or go out, take out, enter into competition or rivalry with another (scold), flower, ——, plough, infant, increase, much, a fragment of vegetable matter, ——, because

これらの「まなご」——兼「二語」は Concise Oxford Turkish Dictionary にある。前者は汽車の蒸気のおとである。これらの英単語もまた英語の基本語彙である。このようにソーンマンクにしたがって、重要度を()の数字であらわす。数字は、ちぢれの千語以内をこゝす。すなわち(1)は一千語以内の重要度をあらわす。(5)は五千語以内の重要度をあらわす。

quick (1), time (1), call (1), out (1), be (1), give

(1), a (1), blow (1), to (1), work (1), industrious (4), cover (1), with (1), mud (2), bell (1), bag (1), hut (3), sheet (2), tea (2), meadow (2), pull (1), send (1), withdraw (3), come (1), or (1), go (1), take (1), enter (1), into (1), competition (6), rivalry (9), another (1), scold (3), flower (1), plough (4), infant (3), increase (1), much (1), fragment (5), of (1), vegetable (2), matter (1)

基本語彙を「標準的社會人としての生活に必要な語彙」と定義するならば、千語や二千語を理解するだけでは役にたたない。英語の統計では、千語で85%をカバーするとい⁽¹⁵⁾、日本の大学入試の英語の統計では、二千語で89%をカバーするとい⁽¹⁶⁾が、さきにもた英単語四十二においては、千語で67%弱、二千語では79%弱にしかあたらない。日本語では四万語の雑誌語彙のうち、千語でカバーできるのは60%強である⁽¹⁷⁾。もちろん英語と日本語のちがいを無視し、わずか四十二の単語での結果だけをとりあげて論じるならば、それは乱暴であるにちがいない。しかし、たとえば文化庁の初級基本語四千や、コンサイス英和の中学高校程度八千語などをみると、基本語彙と

いうものは、予想よりおおくて一万語程度の量をもつものとかんがえられる。ちなみに外国語の辞典で、一万語以上をおさめていないものは、たいして役にたたないとみ⁽¹⁸⁾らる。

四 大学生をなやませた語彙

トルコの小学校一年の教科書四種にあらわれる九九〇語にうつらう。さきに示した⁽¹⁹⁾ではじまる単語二十九でやったようなことを、九九〇語すべてについてやるわけにはいかない。そこで、大学生たちをなやませたトルコ語——英語の単語をいくつかひろってみることにした。教科書Iから

kimes (とらじや), gaga (くちばし), yorgan (ふとん), güneşlen- (ひにはす), köpük (《石鹸の》あわ), kopar- (むしる), yer- (きらく), dut (くわ), kemir- (かじる), gümbüz (たくましい), tombul (まるまるした), turtıl (いもむし), koza (まゆ), civilda- (さえずる), okşa- (なでる), incir (いちじく)

教科書IIから

okunaklı (よみやすしい), topia- (かたづけける), koltuk

(9) 基本語彙に関する一考察

(わきのした), reçete (処方箋), bulasıcı (伝染(病)),
güling (おかしい), ağustosböceği (せみ), iğnele-
((はり)を) sezi, sel (おおみず), harıl harıl (せつ
せと)

教科書Ⅲはページ数が一番おおいけれど、異語数はすくなく、問題となる語がみあたらなかった。

教科書Ⅳから

yastık (まくら), topaç (こま), amır- (ろばがなく),
kısne- (いななく), gökyüzü (おおぞら), essiz (く
らへものない), şehit (戦死者)

以上三十三のトルコ語を The Concise Oxford Turkish
Dictionary にあた(28)り、その初出の英訳語をかきだ
してみる。ただし初出に適訳がないときは、他の適訳語を
みつけて () にいられてしめす。

poultry-house, beak, quilt, bask, froth, pluck, loa-
the, mulberry, gnaw, sturdy, plump, caterpillar,
cocoon, twitter, caress, fig; legible, (tidy up), am-
pit, prescription, contagious, ridiculous, cicada,
(prick), torrent, assiduously, bolster, top, bray,
neigh, armament, matchless, martyr

この三十三の英単語がある。トルコ語の意味をしるた
めに、さがした英語がわからず、英和辞典のたすけをか
りるといふ、その英語の一例である。このうち大学生は
どのくらいこの語を理解しているのであろうか。七十四名
についてテストをした結果は、つぎのとおりである。
[] は正解者数である。

beak [3], loathe [1], sturdy [6], caterpillar [15],
caress [2], tidy up [2], prescription [1], ridiculous
[14], cicada [1], torrent [3], neigh [2]

三十三問で、ひとり平均〇・六八弱すなわち〇点がたく
さぬいたという結果である。テストでは意味をとりちが
えないように、動詞には to をつけ、top は plaything
であることを注意してあった。みぎの結果は岡山の大学
生だけにあてはまるものではないだろうと想像する。で
は、トルコの小学校教科書の語彙と、それに対する英訳
語とのあいだに、どんな問題があるのか、いくつかの資
料をもとに検討してみよう。

第一に、ソーンダイクらの基本一万語のなかにあるか
あれば、どんな位置をしめるだろうか。まぎと同様 ()
は干語以内をしめす。

poultry (4), beak (5), quilt (5), bask (10), froth (7), pluck (2), loathe (6), mulberry (7), gnaw (5), sturdy (5), plump (5), caterpillar (6), cocoon (10), twitter (6), caress (6), fig (4), legible (7), tidy (10), armpit (7), prescription (9), contagious (8), ridiculous (6), cicada (7), prick (3), torrent (5), assiduous (10), bolster (7), top (1), bray (9), neigh (5), firmament (5), matchless (7), martyr (5)

一万語以上に属するものは六語で、他は五、六千語以内にはいるものがおおむね。とするとソーンダイクらの選定語彙からみるかぎり、これらの英単語は基本的なものをとおへ、とくに難解なものではないことになる。

第二に、ソーンダイクらの八千語以内に、みぎの三十三語のうち二十二語がはいつている。そこで前述の新ロンスミス英和の中学高校程度八千語のなかに、どれだけはいっているかをしらべると(いずれも高校程度となつてゐるが)

poultry, beak, pluck, mulberry, gnaw, sturdy, plump, caterpillar, caress, fig, tidy, prescription, conta-

gious, ridiculous, prick, torrent, top, neigh, martyr 十九語がみつかった。ソーンダイクらの六千語以内に属するものが大部分だが、七千から一万語内に属するものも若干ある。もしロンスミス英和の指示にしたがって、高校程度の単語が、みにつくようになっていたならば、大学生の平均〇・六八という成績は、でなかつたのではないだろうか。なおロンスミスには、ソーンダイクらの五千から七千語内の五語が*になることになつてゐなかつた。それは、quilt, loathe, twitter, firmament, matchless.

第三に、「普通の英文の中に見出される単語総数の99%強を占める」といわれる『英語常用単語 6000』⁽²⁾にいつてみる。

poultry (4), quilt (5), bask (6), pluck (3), gnaw (5), sturdy (6), plump (5), twitter (3), caress (6), fig (4), tidy (6), prescription (6), ridiculous (4), prick (4), torrent (5), martyr (5)

十六語がみつかった。ソーンダイクの六千語とくらべるに beak (5), loathe (6), caterpillar (6), neigh (5), firmament (5) の五語がくつらぬが、ロンスミス八千語と比べると、quilt, bask, twitter

(11) 基本語彙に関する一考察

である。ついでに旺文社の『豆単』(注16)約五千語をみると(数字は『豆単』の千語順位)、なんと sturdy (6), ridiculous (3), top (1?) の三語しかのっていない。オンラインダイクでは、五千語内にはいるものが十四語もあり、『常用単語』でも五千語内に十一語あるというのに、このちがいはなんだろうか。さらに、全英連および都教委選定の中学高校基本語約五千語についてみるならば、全英連は ridiculous 一語のみ、都教委は twitter と caterpillar の二語をおさめるにすぎない。さきにかかげた大学生の得点が sturdy (正解者六) と caterpillar (正解者十五) と ridiculous (正解者十四) に集中しているのは、この辺に責任があるといえる。文部省の学習指導要領では、中学で約千三百、高校で約三千六百、計約五千語を学習することになっているが、具体的な語形については中学の必修六一〇語だけが明示されているだけである。いきおい、教科書出版社においては、全英連などの選定語彙を参考にして教科書をつくることになるのであろう。

第四に、英訳語に問題があるのではないか。日本の高校修了程度の学生の英語の理解語彙は五千から八千ぐら

いだとしよう。それでもトルコの一年生の語彙にあたえられた英訳語が理解しえないのは、英訳語にかたよりがあるためではないか。すなわち Concise Oxford Turkish Dictionary の著者たちが、きどってか、わざわざ難解な訳語をつけているのではないか。注(20)にしるしたように Hony の辞書は訳語がおなじだから問題外として、⁽²³⁾ つぎの三種の系統のことなるトルコ英語辞典にあたってみる。まず新 Redhouse では Concise Oxford と英訳語のだしかたが前後しているものがある。

Concise Oxford	New Redhouse
twitter (6), chirp (5)	chirp (5), chirrup, twitter
	(6)
matchless (7), peerless	unmatched, unequalled,
(9)...	unique (9), peerless (9)...
bask (10) in the sun,	sunbathe (3?)...
sunbathe...	
assiduously (10?)	continuously (4?), with
	great effort, incessantly
	(7)

plump (5)	なし	cicada	grasshopper
loathe (6), blame (2),	blame (2), criticize (8),	contagious	なし
criticize (8)	loathe (6)	twitter (6), chirp (5)	chirp (5), warble (5)
bolster, pillow (3);...	pillow (3), bolster;...	matchless	なし
() はノンダイマの順位数であるが、sunbathie の	bathe (6) (2) である、assiduous (9) と continuous (4) であるので、をつけた。これををへふくをりでは、ほかの訳語はむなじだから、むさむさ難解と断定していく。しつこくば bask と sunbathie, bolster と pillow では後者の方がわかりやすいため、assiduous と continuous, loathe と blame では意味がさかちから、比較できない。「せつせと」にあたるトルコの擬態語「ルル・ハルル」は、トルコの国立国語研究所TDKの辞典によれば(間断なく全力で)という意味であるから、Redhouse の continuously と with のあつたのカメラをとった方がよい。	sturdy (5), robust (11)	robust (11)
じぎの小辞典)にあたってみよう。		firmament(5), heavens(1)	sky (1), heaven (1)
Concise Oxford	Okugui	assiduously	なし
bray (9)...	cry (1) as an ass	poultry (4)-house, coop...	hen-coop...
		poultry (4), foam (3)...	foam (3), froth (11)
		legible	なし
		plump (5)	なし
		...tidy (10) up...	...fold (2)...
		loathe (6), blame (2)...	blame (2)
		bolster, pillow (3)...	pillow (3)...
		収録されているものが五語あった。ノンダイマ順位だけである、bray と cry, froth と foam, bolster と pillow は後者の方が基本的だが、逆に sturdy と robust, poultry と coop では前者の方が順位がうまい。この cicada と grasshopper, firmament と sky, tidy up と fold のように、後者は適訳をあたえていない。	

(13) 基本語彙に関する一考察

この辞典ではトルコ語の gök (ゴク) を gökyüzü (おそぞら) も、ともに sky と訳しているが、しぎの小辞典をフランス語、ロシア語訳の小辞典⁽²⁸⁾でめ、この両者を区別している。以上の点で Concise Oxford の英訳語が特にかたよっていると断じるわけにはいかならぬ。

しぎの小辞典⁽³⁾ではどうか。

Concise Oxford

bray, cicada, contagious なし, なし, なし

sturdy, assiduously なし, なし

cocoon, plump, loathe なし, なし, なし

bask (6) in the sun, bathe (3) in the sun

sunbathe...

...prick (3)... fasten *sth* with a pin to

...tidy (10) up... ...clear (1) away

bolster, pillow (3) pillow (3), cushion (3),

bolster

収録されていないものが八語あった。この八語はフランス語訳 Langenscheidt でも同様に収録をわけていない。ソーンダント順位だけびまゝに bask と bathe, tidy

と clear, bolster と pillow のように後者の方が基本的な語であるが、他は Concise Oxford とおなじ訳語になっており、Concise Oxford が特にかたよっているわけではなぬ。

第五に、本稿では基本語彙を「標準的の社会人としての生活に必要な語彙」と定義して論をすすめており、その量は一万語程度であろうといふこと前述のとおりである。いま問題にしているトルコ語三十三は、こうした基本語彙であるのだろうか。みぎにみた小辞典では収録されていない単語があったが、このような辞典の収録語彙数の関係はどうであろうか。一万語前後をおさめる六種⁽²⁸⁾の小辞典について

	収録語彙概数	収録されて いない語数	33語につ き収録率
1. Карманный Тип. Рyc.	6,000	17	48%
2. Dictionnaire Turc. Ott.	8,000	12	64%
3. Langenscheidt Turc.	10,000	8	76%
4. 日土大辞典	13,000	5	85%
5. Okuyul Concise Turk.	16,000	5	85%
6. Concise Oxford Turk.	19,000	0	100%

収録語彙数がふえるにしたがって、みごとに未収録数がすくなくなっていく。当然のことであるが、もっと基本的な語だったら、こうはいかないであろう。共通しておちているものがあるか。五番目までの、すべての辞書ののせていないものは *harl harl* (せっせと)、『2をのぞく四者にはいものは *bulasca* (伝染(病))、*tombul* (まるまるした)、三番目まで共通してないものは *anr* (ろばがなく)、*agustosböcegi* (せみ)であった。

なにが基本語かをかんがえるとき、ふたつの側面が重要である。ひとつは頻度数、すなわち、その言語でくりかえし、くりかえしあらわれる語、たとえば数詞や人体語や「テニオハ」のような付属語など、つかわれる回数
の大小である。もうひとつは、分布範囲すなわち、ある特定の職業や地域などに限定されている語、たとえば農業用語とか洋裁用語とか、つかわれる範囲の大小が問題である。ソーンダイクらは、非常におおくの文献から頻度数のたかいものをえらびだすと同時に、いくつもの文献において、たかい頻度数をしめす語、いいかえると分布のひろい語をも考慮している。このような点で、三十三のトルコ語をみると、*anr* (ろばがなく)、*kışna* (い

ななく)、*koza* (まゆ)、*du* (くわ)などは農牧業、養蚕業にとつては大切な語であっても、基本語彙とはいえないかもしれない。また *bulasca* (伝染(病))、*recete* (処方箋)などは医療用語であり、*avida* (さえずる)、*harl harl* (せっせと)などは擬声語、擬態語であり、*agustosböcegi* (せみ)は季節的昆虫であり、*selit* (戦死者)は宗教的語感をもった語である。いま、これら分布の点で疑問となるものを基本語彙からははずすと、さきの小辞典における未収録語数は、ずっとすくなくなり、収録率もたかくなる。

1. Карманный	9	73%
2. Diplomat	4	88%
3. Langenscheidt	3	91%
4. 日土辞書	3	91%
5. Okçul	0	100%

一万語以上をおさめる辞典では、基本語彙がよく収録されているといえよう。

第六に、問題のトルコ語三十三は、トルコのこともちにとつて、どう理解されているだろうか。友人のこともムラット君 (Murat Günhan 回答時年齢六年五か月)

(おおぞら) M Hava そら

F Bizim yukarda ぼくらのうえに

(へらへものな) M Esi olmayan あいてがいな

F Esi olmayan あいてがいな

(戦死者) M Savırken ölen asker 戦争のとき死ん

だ兵隊

F ———

以上のこたえからみて、いくつか不明のものや誤解しているものもあるけれど、六歳半のムラット君は、かなりよくわかっている。なかなかおもしろい説明がされている。ふたりとも誤答したのは ver- (きらう) と koluk (わきのした) で、これには理由があるが、いまはふれない。se (おおみず) を (いいあめ) とうけとるのは、水害を連想する日本とちがったアンカラの気候との関連でおもしろい。

五 まとめ

基本語彙という測定困難な、実証的研究のしにくい問題にとりくんでみた結果、本稿であつかった範囲において、いくつかの論点を整理するならば、

基本語彙とは、標準的社會人としての生活に必要な語彙であり、その量はかなりのものである。「未開」社會と原始社會を混同して、「未開」に貧弱な語彙を空想した過去は、まだ決して過去ではなく、つい先日よんだ雜誌のなかにも、二百語ぐらいで用をたせるという「未開」社會のことを信じているらしい一文があつた。ある目的のために数百の語彙を選定するのは、それなりの意味をもっているけれど、どの言語にも一万程度の基本語彙が存在するとみるのが妥当である。その根拠のひとつに兒童の語彙理解のたかさがある。岡山師範や兒童心理學者たちの苦勞おおい調査結果にてらしても、またトルコのこどもたちの理解力をみても、こどもたちが数千の語彙を学齡前に保有していることに、まちがいはない。

英語の選定語彙に関しては、中学高校で約五千語をおさめることになっているが、その具体的な語形については内容を検討する必要がある。本稿でとりあげた英単語の重要度にしても、資料によってかなりのくいちがいをみせている。独自の見解もとより大切であるが、五千語のなかにすら、十四、十一、三、二、一のごとく、きわだった収録数のちがいが存在する。なお A A 研の言語調

査票上(千語)のなかには *beak* と *foam* がはいっていた。以上のことと関連して、大学入試を主たる目的とした語彙集のいくつかを批判的に比較する結果となった。そして『英語常用単語 6000』、『新コンサイス』における語彙選定がよく、ごく小型のわりに *Langenscheidt* はよくできている、との感想をのべて本稿のむすびとする。

- (1) O. Jespersen—*Growth and Structure of the English Language* 1905, 1952, ninth edition, p. 199
- (2) 大野晋『日本語の起源』昭32、岩波新書二〇八ページ
- (3) O. Jespersen—*ibid.*, p. 200 f
- (4) 岩波『広辞苑』第二版には約二十万の項目がおさめられているが、偶然にひらいた一ページで、みだしの語が説明なしでは理解できなかったもの三十九であった。二三八七ページに三十九をかけると、九万三千語は理解できないという計算(?)になる
- (5) 鼻地三郎、篠原しのぶ『児童心理学』昭50、峯書房六四ページ、一三三ページ
- 岡山県師範学校付属小学校『児童の語彙と教育』昭10、藤井書店二ページ、一三八ページ
- 大久保愛『幼児言語の発達』昭42、東京堂六四ページ
- (6) ただこの種の調査には多大の忍耐と根気を要するものであることをかんがえ、敬意を表したい。岡山師範訓導が調査方法をのべている一節を引用させていただく(前掲書

一三八ページ)「且調査は単調で長時間に渡り、其の上児童が職員を知らざりしため、疲労すること甚だしく、時恰も暑熱の候児童の難儀もさること乍ら、その調査の苦しさは唯かうした経験者のみ知る体験である。しかし頑是ない児童は、時折与えられる一つのキャラメル、ドロップスに大変元氣を出し……」。

- (7) 林四郎「語彙調査と基本語彙」(『電子計算機による国語研究Ⅲ』国立国語研究所報告39、昭46、八・九ページ)
 - (8) B. Malmberg—*Structural Linguistics and Human Communication: An introduction into the mechanism of language and the methodology of linguistics*, 2nd edition 1967, p. 143 では、英語のどんなテキストでも、千語で85%をカバーし、四千語あれば97.5%をカバーするという統計がしめされている。林氏の前掲論文には、国立国語研究所が雑誌九十種(四万語)について調査した結果がしめされている。その%はつぎのようである。
- | | |
|----------|-------|
| 100語で | 32.9% |
| 1,000 " | 60.5 |
| 3,000 " | 75.3 |
| 5,000 " | 81.7 |
| 10,000 " | 91.7 |
| 40,000 " | 100 |
- (9) 前掲『児童心理学』一三三ページ
 - (10) 前掲『児童の語彙と教育』一七八ページ
 - (11) この教科書には出版年をしめす数字がないが、トルコ人 Hüseyin Thyshuz 氏(三八歳)と Özean Arslan 氏(二

(19) 基本語彙に関する一考察

- 七歳)がともに使用した教科書であるところから、一九四〇年代の出版であろう。
- (12) 語尾、接尾辞、付属語、助動詞などの区分については、竹内和夫『トルコ語文法入門』昭51、大学書林三版を参照。なお、二版の誤植を訂正したが、まだ若干ある。
- (13) A. D. Alderson & Fahri İz—The Concise Oxford Turkish Dictionary 1959
- (14) E. L. Thornidike & I. Lorge—The Teacher's Word Book of 30,000 Words, New York 1944
- (15) 注(8)
- (16) 赤尾好夫『英語基本単語熟語集』昭50、旺文社
- (17) 注(8)
- (18) 文化庁『外国人のための基本語用例辞典』(第二版)昭50、大蔵省印刷局 には「日本語学習の初級の段階において出会うことが多く、かつ必要度が高いと考えられるもの約四〇〇〇語を編集委員会が選定した」とのふりかけがある(傍点筆者)。
- (19) 佐々木達『新コンサイス英和辞典』昭50、三省堂には、みだし語に中学校程度の約二千語(*)と、高校程度の約六千語(*)のふりかけがある。
- (20) ホンコンキールは別冊を著した著者 H. C. Honey—A Turkish-English Dictionary 1947 があるが、訳語はほとんどがトルコ語から Concise を著した著者は、三十三語のちやん topla- (かたづけ) にあたる訳語は tidy up, clear up などであるが、Honey の辞書には collect together など Concise とおなじ訳語はあつて Concise にある tidy up などはない。
- (21) 伊藤恭二郎『英語常用単語6000』昭29、昭51(28版) 大学書林 この単語集では、しるしのないものがあるが、基本となる約三千語(*)は、重要な約千二百語(*)は、約九百語(*)は、約九百語をしめして、この四段階を中学、高一、高二、高三にあつては、本稿とは他との比較から(3)(4)(5)(6)の数字をつかうことにする。
- (22) 全国英語教育研究団体連合会『中学英単語活用集』昭38、同『高校英語の Minimum Vocabulary 試案』昭38、東京都教育委員会『高等学校英語にむける語彙の半年別精選』昭36
- (23) 1) Redhouse Yeni Türkçe-İngilizce Sözlük, New Redhouse Turkish-English Dictionary, Istanbul 1968 の辞書は有名な Sir James W. Redhouse—A Turkish and English Lexicon, Constantinople 1890 を今日略して訂編集したもので、訳語に若干異なるもの。
- 2) V. Okçugil—Türkçeden İngilizceye Yeni Kitâlık Lügat, A Concise Dictionary Turkish-English 1946
- 3) Langenscheidt Üniversal Sözlük Türkçe-İngilizce İngilizce-Türkçe, Berlin 1960
- (24) Türk Dil Kurumu—Türkçe Sözlük, Ankara 1974 p. 361 Aralıksız olarak, durmaksızın, bütün gücüyle.

(25) Langenscheidt Dictionnaire Universel Turc-Français Français-Turc, Berlin 1966 *gök ciel, gökyüzü* firmament

Карманний Турецко-Русский Словарь, Москва 1968 *gök небо, gökyüzü невовод*

(26) Карманний Тур. Рус. 辞書の収録語の概数がかかれてゐない。ごく便宜的にこの方法によつて算出した。辞書のページ数を十等分し、そのページの語数をそれぞれ平均語数をなし、それぞれページ数をかける。この方法を概数六千と明示してある Карманний に適用してみたとする六千三十五とでた。なお Langenscheidt, Oxford の辞書は紙数節約のため、みだし語の説明のなかに派生語などを多くめづるから、前述の単語のかぞえかたにしたがつて語数を計算するのが妥当とみたが、そのようにした。小辞典六種は

1. Карманний Турецко-Русский Словарь, Москва 1968
2. Dictionnaire Turc-Ottoman-Français, Istanbul 1935
3. Langenscheidt Dictionnaire Universel Turc-Français Français-Turc, Berlin 1966
4. 日土日大辞典、日土協会、昭11
5. V. Okçugil—A Concise Dictionary Turkish-English 1946
6. The Concise Oxford Turkish Dictionary 1959

日土土日は訳語に不適當なものがめだち、大辞典とはいえない。

(27) 前掲 (24) TDK-Türkçe Sözlük p. 158 *cuul cuul* kuşların bir ağzından cıvıltı ile ötüşmelerini anlatır. ㊦が「齊にブーンとなくことぞしむす。+da は擬声語を動詞化する接尾辞で用例はおもふ。

(28) *şişik* という語は、いままであげた十一種類のトルコ語辞典のうちでは Dictionnaire Turc-Ottoman-Français p. 202 *Şişik (mağur): orgueilleux, fer. じもふだけども。* また七種の比較のおおきな辞典にあたりながら、現代トルコ語の対訳辞典としては最新最大の約六万語を著する K. Steuermann—Türkisch-Deutsches Wörterbuch, Wiesbaden 1972 *じもふもたらなう。* また正書法の *şişik* TDK-Yeni Yazım Kılavuzu, Ankara 1975 *じもふら。* また方言辞典 *şişik* TDK—Türkiyede Halk Ağzından Söz Derleme Dergisi, İstanbul 1939, 1941, 1942 *じもふら。* p. 1293 *Şişik [S], 1. Gururlu (Gemlik [Bursa])—2. Koca karınlı (Gâvurdağ [Cebelibereket-Seyhan])* トルコの方言で「腹膨ら」ヤーンの方言で「おなかのおおきな」意である。なお「さへらんだ」意の *şişkin* という語が全辞典にみえる。

(一九七六、十一月十八 稿下)

(岡山大学教授)